

（午後3時30分 再開）

○議長（中本正人君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番6、14番 岡君。

〔14番（岡 弘悟君）登壇〕

○14番（岡 弘悟君）今回、大きな項目を二点。

一つは給食から見えるこれからの課題。食品ロスが結構話題になっていたり、あと、4番議員とちょっと重なるんですけども、医療体制のことについて、ちょっと聞きたいと思います。

そして二つ目が、クラウドファンディングを活用したアニメ誘致。これ、四、五年前に一度、アニメ誘致の話はさせてもらったんですけども、前市長のときにさせてもらったんですけども、今、首長かわりまして、また新たに1回質問してみようかなと。前回、結構一生懸命話をさせてもらって、結果、岡君はアニメ好きという話で終わったというね。それで終わったということで、僕も好きは好きやけども、そういうつもりで話したのではないんで、今回市長もかわったので、もう一度話してみようかなと。今回は、岡君はアニメ好きというのを前提に、一回話を聞いていただければいいかなと。

この二点で、今回は一般質問させてもらいます。

一つ目、給食から見えるこれからの課題。

昭和29年に学校給食法が施行され、現在に至るまで、子どもたちのお昼ご飯の代名詞である給食、その給食の開始理由は、満足に食べられない子どもたちへ食を提供することか

ら始まりました。現在でもその一端を担っているのは変わりませんが、国が豊かになり、食が変化する中で、給食の役割も変わってきました。栄養バランスだけではなく、おいしさを考え、子どもたちに提供されるさまざまなメニュー、昭和生まれの私には、当時考えられなかったレストラン的なメニューがあり、うらやましい限りではあります。

しかしながら、国が豊かになったからこそ生まれた問題もあります。その一つに、食品ロスという問題があります。さらには、大規模な給食センターでの調理方式に変わり、一度食中毒が発生すると患者数が数十人、百人単位で発生してしまう。もちろんあってはならないことであり、細心の管理のもとで給食が提供されているのはわかっていますが、可能性はゼロではありません。その場合、一番危惧されるのが医療体制であります。数十人規模やそれ以上の人数の食中毒患者に対応できる医療体制が本市で整っているのか、以下質問いたします。

①給食の大きな役割の一つに食育がありますが、食育の観点で、食べ残しをどのように本市では教えておられるのでしょうか。

②本市給食の残食率はどれぐらいでしょうか。そして、その残食率のデータは過去からどのように推移しているのか、複数年度のデータの比較と、そのデータにより、どのような対策が行われてきたのか、具体的にお教えてください。

③無理に食べさせる行為は、食育、そして教育そのものに反していますし、食品ロスを減らす手だてにはなりません。食育の観点でいえば、食べ残しをどのようにリデュース・

リサイクルするのか、どのように無駄をなくしていけるのかということが大切だと感じます。本市の給食のリサイクル率とリデュースの取り組みをお教えてください。

④給食等により大規模な食中毒が発生した場合、本市では患者は何人まで対応可能なのでしょうか。また、現在どのような医療体制をお考えなのか、これからの課題も含め、お教えてください。

大項目の2番です。クラウドファンディングを活用したアニメ誘致。

片渕須直監督のアニメーション映画「この世界の片隅に」が異例の大ヒットを記録しています。この映画の制作にあたって他の制作手法との大きな違いは、クラウドファンディングを活用し、制作費用を集めたところにあります。以前、アニメーション誘致の利点と、これからの観光資源の乏しい市町村での観光資源の新たな創出には、アニメ誘致は魅力的だと話しましたが、現在は誘致ではなく、先行投資によりアニメ誘致をしていく手法が始まると感じます。

そこで、本市ではクラウドファンディングを使ったアニメ誘致について、どのようにお考えなのか、以下お尋ねいたします。

①聖地巡礼と呼ばれる、アニメロケ地をめぐる人たちが数多くおられるのは周知の事実ですが、国内だけでなく海外からも多くの観光客が聖地巡礼を行っています。経済的にも費用対効果は大きいと考えますが、本市ではどのようにお考えでしょうか。

②物理的な問題、例えば、人力的サポートや観光名所等をあまり必要としないアニメーション誘致は、小中規模の市町村にとっては、大規模な都市や有名な観光スポットがたくさんある市町村等と同じ土俵で競い合える事業だと考えます。本市ではどのようにお考えでしょうか。

③海外では、既に日本のアニメーションをジャパニメーションというカテゴリーで、アニメの中でも特別な存在になっています。ドラマの脚本や実写映画の大半がコミックスからの実写化であり、映画監督もアニメーション監督がこなし、大ヒットを記録しております。

世代交代がうたわれる今のアニメーション業界のこの時期に、クラウドファンディングを活用したアニメへの投資により、本市での観光資源の創出と聖地巡礼のスポットとして、観光客誘致に取り組むべきではないでしょうか。

以上です。明確な答弁よろしくお願ひします。

○議長（中本正人君）14番 岡君の質問項目1、給食から見えるこれからの課題に対する答弁を求めます。

教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君）一点目の、食育の観点で、食べ残しをどのように本市では教えているかについてお答えします。

まず、食育は本市でも大変重要であると考え、橋本市教育大綱の中で、多様な学びと健やかな体を育む基本方針の中の重点目標として、食の大切さの学びを推進すると位置付けております。

成長期である子どもたちに食の大切さを伝えるため、小学6年生を対象としたバイキング給食時に、人の体を構成する三色栄養の必要性、なぜそれを食べる必要があるかを教えており、毎月の献立表にも掲載しています。また、感謝の心を育てるため、生産者との交流会を開催し、給食を生産者の方と一緒に食べ、野菜などをつくるときの苦労や、成長したときの喜びを教えていただいております。

これに加えて、家庭での協力も不可欠であ

り、小学校の新入生の家族を対象に給食の試食会を開催し、カロリー、三色栄養を表記した献立表の活用方法を説明し、朝食、給食や昼食、そして夕食を規則正しくとることや、給食と家庭の食事のバランスをとっていただくようお願いしています。このように、食べ残しをできるだけしないように伝えているところです。

次に、二点目の、本市の給食の残食率、その対策についてお答えいたします。

残食率は、平成25年度は14.5%、26年度は14.2%、27年度は10.7%となっており、少しずつではありますが減少しております。対策といたしましては、年に2回、残量調査週間を実施し、献立の一品ごとの残量調査を各学校で実施し、橋本・高野口両給食センターで集計を行い、この結果をもとに、栄養士が特に多く残っている献立をなくすのではなく、栄養のバランスを考えながら、調理方法や材料の組み合わせを変えるなど工夫をしております。

次に、三点目の、学校給食のリサイクル率についてお答えします。橋本・高野口の両学校給食センターの廃棄物の年間総量は約100tです。この中には、残飯と呼んでいる食べ残しや、残菜と呼んでいる野菜の皮や切り落とし、牛乳パック、事務系ごみなどが含まれています。残菜の一部は、市が管理する公園で飼育している猿などの動物のエサとしてリサイクルしていますが、その量は年間約1,200kgで、リサイクル率は約1.2%です。また、数箇所の学校では牛乳パックのリサイクルにも取り組んでいますが、ほとんどは焼却処分をしているのが現状です。

次に、リデュースの取り組みについてお答えします。現在各校で、児童生徒で組織する給食委員会を中心に、残飯を減らす取り組みを行っており、啓発ポスターの作成、声かけ、

委員会独自の残量調査、メニューの由来、郷土料理、旬の食材説明の校内放送、また講演会を行っているところです。応其小学校では、春に完食シールを集める取り組みを行い、残飯が大きく減少しましたが、無理して完食する児童もいたことから、秋からはもぐもぐタイムと呼び、10分間話をしないで食べることに集中させる取り組みを行っています。給食を配るときに、担任教師がまず均等に配り、いただきますの前に、食べ切れない児童生徒の給食の一部を、食欲のある他の児童生徒に移す調整・指導も行っています。また、担任教師が率先しておかわりをする学校もあります。

給食センターでは、年2回給食主任者会を行い、各校の取り組みの共有を図っており、児童生徒にとっておいしく安全な学校給食の提供に心がけているところです。

○議長（中本正人君）病院事業管理者。

〔病院事業管理者（山本勝廣君）登壇〕

○病院事業管理者（山本勝廣君）給食等により大規模食中毒が発生した場合の、橋本市民病院の受け入れ体制についてお答えいたします。

大規模食中毒が発生した場合、当院では、感染対策室作成の院内感染対策マニュアルにより受け入れを行います。

大量の同症状の患者が来院した場合、消防、保健所、地域の医療機関等から情報収集を行うとともに、病院長指示のもと、診察可能医師数、対応可能看護師数、対応可能医療技師数等の把握を行い、受付場所、待合場所、診察場所、処置施行場所、トイレ等の受け入れ準備を行います。また、食中毒の規模の拡大に応じて、待機職員の呼び出しも行います。

次に、受け入れ可能患者数ですが、有事の際の病院の空きベッド数、呼び出し可能医師数、看護師数、医療技師数等により患者受け

入れの状況も変わりますので、現時点では何人まで受け入れ可能ということはお答えできません。しかしながら、本院では当然のこととしまして、可能な限りの患者を受け入れます。

また、本院では、これまでから災害訓練や感染症発生時の患者受入訓練を行っていますが、今後ともその強化を図っていかねばならないと考えています。

○議長（中本正人君）14番 岡君、再質問ありますか。

14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございました。

再質問、まず一点目の小項目の一点目で、食育に関しては、本市はかなり前からずっと取り組んできてくれるのはわかっています。その効果も上がってきていると思いますし、そして、その効果で残食率も年々下がっていったら。ただ、ちょっと気になるというか、25年から26年は減少率が0.3%やったんですけど、27年からいきなり3%、4%近く下がっておるんですけど、これはいい要因なんですけども、これはいい要因としては何が考えられるのでしょうか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）各学校における取り組みというふうにご理解いただきたいと思えます。先ほど、答弁の中でもお話しさせていただきましたように、給食委員会の取り組みというのは、どんどんどんどん進んでおります。応其小学校を例に取り出させていただきましたが、応其小学校だけではなくて、各学校で給食の残食率を減らすというか、全部食べられるような指導というんですか、そういう形で取り組んでいます。

先ほど一例を挙げさせていただきましたけれども、講演会というのを実施している学校に

つきましては、例えば、食肉処理センターの方から、命をいただくというふうな講演をしていただいたり、食の取り組みについて随分努力をしている、その成果だと私自身思っています。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

少しずつ生徒の皆さんにも、食育というのがどういうものかというのを本市の教育の中へ取り入れたのが、少しずつ成果が出て実を結んでいるという、そういうことやとは思いますが、そこで、1番、2番、具体的に答えとかあって、僕、ここからちょっと、いろいろ聞きたいことがあるんです。3番目なんですけども。約100t、年間処理しているということなんですけど、この100tはだいたい処理料としては、おいくらぐらいかかるのでしょうか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）全て投棄しておりますので、処理料という形で、今、算出した金額は持っておりません。後で説明させていただきます。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）食べ残しに関しては減ってきているし、基本的に、食べ残しというのはゼロにするというのは、僕は不可能やと思うんです。基本的にね。今の給食、ここにも書かしてもうたんですけど、無理に食べさせるというのは食育の観点からいうと反するし、逆に言うと、残すことも食育の観点からいうと相反するもんやと。ただ、今の教育の中で、僕ら小さいときというのは、食べ切るまで残って全部食べ切らなさいというのを、よく先生に怒られてやったんですけど、今、多分それをしてしまうと、逆に食育にもならないし、今の教育にはそぐわないとは思っています。

その観点でいうと、ちょっと揚げ足とるよう
で申しわけないんですけども、一番最初に観
点で、感謝の心を育てるため、生産者との交
流会を開いたりとか、命の大切さを教えてお
られるという話をされてるんですけども、そし
たら、この100 tのうちで、残菜と呼ばれる部
分は何パーセントあるんでしょうかね。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）残菜は35%です。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）その35%の残菜の中で、
本当に残菜ですかね。言い切れますか。食べ
れるところ、食べれないところ、きっちり分
けてますか。食べれるところ、捨ててません
か。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）努力はしていますが、
議員おただしのとおりに、100%そういう形で処
理できているかということについては疑問が
残ります。今後、その部分で言いますと、な
るべくリデュースに取り組んでいく、どんど
んどんどん取り組んでいくという姿勢が必要
だと思いますし、そういう形で取り組みたいと
思っています。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）結局、一番気になるの
は、教えている側が食べ残しはだめというの
はもちろんそうやし、命の尊さとか、生産者
の大切さとか、そういう交流会を開いてご苦
労を教えている側の人間が、まあ大人ですわ。
大人が、食べられるものをぱーんと切って捨
てているというのは、でも、これ、確かに調
理する上で、例えばかたい部分とか、なかな
か時間との兼ね合いがあるから、そこは切ら
なあかん部分もあると思うし、例えばいろん
なお話聞いてたら、土に埋まってるもんとか、
土ついておったらあかんで、なるべく皮を
深く切ったりとかして効率化を図るとい

はよくわかるんです。

でも、その部分を考えたとしても、僕はそ
れが悪いというておると違いますよ。じゃ
あ、大切さを教えるのであれば、リサイクル
とかリデュースをもっと取り組まなあかん
の違いますか。その安全側のものをとるんで
あればね。それを、安全側をとらんと、僕ら
が小さいときに結構小さい石入っておった
とか、結構笑い話で済んだんですけど、今は
そんな話にはならないですよ。やっぱり、き
っちりとした管理体制の中で、先ほど同僚
議員も聞いてはりましたけども、やはり今
はどんどん厳格化されて、きっちり、もう
本当に安全をとる側になっている。だから、
残菜がどうしても出るのわかるんです。わ
かるけども、その部分をリデュースとか
する取り組みが本市で1.何%というの
は、どうなんでしょう。それって食育の
観点からいうと、本当はというと無駄が
出るのわかるんです。無駄が出るとわか
ってるんやったら、その無駄を再利用し
ないと、食育の観点から考えると全くそ
れはおかしな話になりませんか。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）新しい学校給食セ
ンターでは、厨芥処理システムという形で、
原材料を細かく刻み、そして遠心分離で水
分を飛ばすという、そういう方式が新しい
学校給食センターでは、橋本の給食セン
ターで取り入れられます。

今後、今議員おただしの点でいいですと、
まだ確認はとっていませんが、例えば野
菜類の業者への返却、これは厨芥システ
ムを利用して、細かく砕いた皮や葉など
をまいていただく、そういうのも可能
性があると思いますし、また、同じよう
に養鶏業者への引き渡し、こういうふう
なことを取り組みを考えていきたいと。

ただ、残食につきましては、内容分の
点で

かなり無理がございますので、残菜でどれだけリサイクルに取り組めるかを考えていきたいと思っています。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

残食は確かに塩分きついんで、結構難しいという話は聞きました。余談ですけど、昔飼っていたペットに、犬とか飼ってた、僕もそうですけど、結構残飯あげちゃうとなかなか長生きしなくて、ドッグフードに変わったら今長生きしているというのは、塩分の関係がすごく関係しているというのはよく聞くんですけども、だから、それを堆肥化とか肥料に使うのは難しいとは思んですけど、ただ、残食に関しては食育で教えていって減らしていく、食の大切さを教えていくというのは非常に大事なことで、そこはそれでええと思うんです。

再利用は難しいとは思んですけど、先ほども言いましたけど、ずっとこのリデュースとかリサイクルを考えずに、残菜のほうを、この1.2%しかできてないというのは、食育の観点からは具合が悪いんじゃないかと。大人が食べられる、食を大事にしましょうねと言うてる部分を、実は大人が無駄にしているというのは、かなり問題があるんじゃないかなと思って、ちょっといけずやったんですけど聞かしてもらったんですけども、今後考えていっていただけるといってお話やったんで、これ以上言っても仕方がないんで言いませんけど、ただ、一つ、遠心分離機にかけるという話は、それは水分飛ばしているだけなので、軽くなって処理料は安くなるけども、食育の観点でリデュースしているわけではないので、それはもちろん税金の投入額は安くなるんで、もちろん大変結構なことなんですけども、ただ、食育の観点で、大人たちが食品ロスはどう減らしていくかという観点では、それは関

係ない話やと僕は思います。

それと、なぜ僕、今回ここまで、この質問さしてもうたかという、実際、給食センターが日常的に食品ロスを発生させている施設の一つということで位置付けられていますよね。実際にね。その中でいろんな、コンビニとかレストランチェーンがある中で、その一つとして、規模の大小はありますけども、食品ロスを発生させている施設の一つやと。国としても、それは食品ロスをどんどんどん減らす取り組みをしていかなくちゃいけませんよという話のもとで、いろんな取り組みがなされているということをちょっと聞いたので、橋本市ではどうでしょうかと思って聞いたんですけども、ちょっと1.2%というのはあまりにも寂しいので、できたらもう少し、残菜の部分においてリサイクルをしていただきたいと思っています。

これ以上言っても仕方ないので、でもほんま、今後ちょっと考えてくださいね。ちょっと答弁もらいます。

○議長（中本正人君）教育長。

○教育長（小林俊治君）先ほどのご質問の中で、答弁できなかった点でお答えします。

平成27年度の100 tの処理料、料金なんですけども、96万9,400円です。そういう形で処理をしていただいています。

それから、議員おただしの件で、今後ということでお話をいただきました。例えば、バクテリアを使っての分解等さまざまな方法があると思います。ただ、費用対効果もございますので、お金を使って、より大きなお金を使ってリデュースということも、これは食品を大事にするという観点から必要かもわかりませんが、その部分はよく考えていく必要があると思います。

今後の取り組みについては、やはり費用対効果も考慮に入れながら、リデュース、リユ

一スできるところはしっかりとしていきたい、そのように思っています。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）よろしくお願ひします。

今、だいたい100万円近くかな。そこで話戻して悪いんですけど、気になるのは、結局、食材は保護者の方が給食費として支払ってるのかな。光熱費、人件費を含めて税金投入されているわけでしょう。残菜減らして、残食減らして、その光熱費とかが下がるかといったら、僕は疑問やと思います。実際下がらないと思うんですよ。同じだけつくるんやから。

ただ、せっかく買って税金かけたものを、保護者の方がお金を出したものを、保護者の税金というか、橋本市の税金を使って処理しているというのは、極力減らすべきやと思うんでね。その減る分と費用対効果がどれだけあるかというのは、もちろん考えてもらわなあかんし、リサイクルはお金かかって本末転倒という部分もあるんで、もちろん税金の投入額が多くなれば市民負担が増えるわけなので、それは僕も望まないんで、できたら有効活用できるような方法が何か少しでもあれば、これが2%になっただけでも、食育の観点からすると非常に成功やと思いますので、その辺も踏まえて考えてください。

これはもうこれで結構です。

4番目なんですけども、もう同僚議員がほとんど聞いていただいたので、ただ一点、気になることが、県の中の話というのかな、保健所単位で動くというのは、もちろん県の中の体制が整っているというのは十分理解しているんです。で、物理的に最大限できることをもちろんやっていただけるのも十分理解しています。

ただ、そこで一番気になるのが、物理的に和歌山県でできる範囲というのがマックス限られている。もちろんほかのところも同じや

と思うんです。その中で、もし橋本市で起こった場合に、地域の親御さんたちは、もちろん救急車で来てもらうわけにも、何十人もおれば救急車も来てくれないので、もちろん自分でこの病院というのをちゃんと聞いて行きはと思うんですけども、橋本市民の場合ですよ。橋本市民の場合からしたら、近くの病院に行きたいんです。そうなってくると、だんだんだんだん遠くなりますよね。県でいうたらね。東の端っこなので。最初はどんどん近い病院を紹介してもらえんやけど、だんだんだんだん遠くになっていく。和歌山県でいえばね。

でも、よくよく考えたら、東の玄関口とよく言うように、自分たちから言っているように、五條市があって、奈良県があって、大阪府があって。その中で、せっかく三市協やってるのに、これ、首長同士で県の縦割りを飛び越えて、こういった有事のときには病院同士の連携というのはできへんのかなというのがちょっと気になるんです。それは市民の一番の望みでもあるし、ただ、県の縦割り行政が絡んでおるんで、それは病院間の、病院の中で話しても、それはできないと思います。僕はね。だから、ここはせっかく三市協あるんで、できるできないというのは、もちろん県の、和歌山県での話になってくるんで、でも、これはお互いさんの話やと思うんです。奈良県で起こったときは奈良県だけの話なんかという話になってしまうので、せっかく三市協という取り組み、市長されてるんですけども、これは市長レベルでこういった病院の連携というのは、話はできないんでしょうか。

○議長（中本正人君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）岡議員の質問にお答えをします。

三市協の連携というのは災害協定もありま

すから、それを災害にとらえるのであれば可能やと思いますし、一度協議をしていく上ではいいのかなとは思いますが。

ただ、気になるのが、じゃあ五條市に市立病院があるか。ないんですよ。県立五條病院も今度療養型のベッドに機能分化するので、そこで果たして食中毒の患者を受け入れが可能なかどうか。また、河内長野市も市民病院がありませんので、逆に言うたら国立の医療センターしかないというところで、そこで果たして受け入れができるのかというのは、これはなかなか市長レベルでは難しい問題ではないのかなというふうに思います。

ただ、手をこまねいていても仕方がないので、例えば病院同士の連携をもう少し、三市協の中で協議をできるかできないのかというのも考えていく必要はあると思いますが、どの程度、ほな河内長野市長が、例えば国立に対してどれだけの、お金は当然そこに設置してあるので、かつらぎ町が紀北分院に出しているのと同じで、そういう状況の中にあるとは思いますが、実際それができるかどうか。

やっぱり病院で難しいのが、夜間そういう自体が起きたときに、果たして当直医がいて、そこに受け入れが本当に早急にできるかというの、これ、非常に病院間の連携という部分では難しい部分があると思います。消防によって振り分けはできると思いますし、その中で三市協で片づく問題であれば取り組んでみたいとは思いますが、ただ、県立病院と国立病院なので、この辺の問題が果たしてどの程度クリアできるのか。

やっぱり最も大事なことは、この橋本医療圏でどうやってやっていけるのかと思うんですよ。症状によって、これは近くの医院に行ってもら、一次救急については近くの病院、医院に行ってもら。二次医療について

は、市民病院あるいは紀和病院、県立医大と連携をしていく。で、三次になったときには、はじめて和歌山であったり国立とか、そういう、近大もそういうふうになってくると思いますけども、そういう連携もよく考えていかないと、三市協だけで片づく問題ではないというふうには思っています。

ただ、大事なことなので、来年から河内長野市が会長になりますので、そこで協議を、一度橋本市から投げかけていくというふうにしたいとは思っています。ただ、うちへ来る可能性のほうはるかに、河内長野で起きたら、市民病院、市民病院ということにもなりかねませんので、この辺の問題も実は隠れてます。五條市にとってもそうやと思います。奈良のあちのほうへ行くのか、うちへ来るのかというふうになると、その辺のことも協議をしかんと、十分橋本の考え方をまとめていかないと若干難しい部分があると思いますが、ご提案いただきましたので、一旦内部で協議をさせていただいた中で、三市協へどういった提案をするのかというのを諮っていきたいと思います。

○議長（中本正人君） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（山本勝廣君） 一応、市民病院としてお答えします。

最初、食中毒かどうかってわからないんですよ。嘔吐、下痢してる、お腹痛いと。そういう患者さんがたくさん発生しているという場合は、やっぱり最初は消防が連絡あると。それぞれの患者さんを搬送するというような現状になっています。

その例が、平成23年の12月ですけど、紀北青年の家でノロウイルスの食中毒がありました。このとき、これは伊都消防から私どもに電話がありました。私、たまたま当直だったので、それが夜の8時過ぎだったんですね。100人余りが発生しているけども、市民病院何

人受けてくれるかという問い合わせでした。一応、私は官舎にいる医師に連絡して、あるいは看護師は当直3人いますけども、看護部長はじめ連絡して、応援を頼んでということで、医者5人くらい、看護師が6人くらいというようなことで、一応最初は10人とまず言って、それから30人、結局31名受けたんですけども、その伊都消防からの連絡があったときは、まず紀北分院で受けていると。でも、とても受け切れないので市民病院でお願いしますという連絡だったんですね。結局、9施設が対応したというふうに聞いています。名手病院なんかも行ってるみたいですね。

ですから、消防がこういうときに中心になるのかなど。このときは橋本消防と伊都消防は別個の指令ということになってましたので、伊都消防から来たんだと思います。今はもう、2年前からでしたか、橋本消防がこの伊都橋本地域の指令室となっておりますので、その辺のところは統一して統括されているので、こういう指令はもっとスムーズにいくのかなというふうに思います。

実際に保健所とか県が動いたのは、その後、やっぱり食中毒らしいから、その原因を調べるというようなことで、結局動いたということで、保健所、県が動いたのは次の日の朝ということで、ノロウイルスで診断できたのは、それが鑑定するまでに二、三日かかりましたので、というようなことなんですね。

ですから、これは146名の患者発生なので、御坊市とか立川市とはちょっと規模が違いますけども、もっと大きな災害、食中毒が起きた場合は、どうなるんかと。それは消防間の連携になるのか、今、市長が言われたような市町村での連携をしておくのか、あるいは県や府との連携をしておくべきなのか、そういったことも必要かなとは思いますが。

以上でございます。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございます。

市長、また和歌山県で対応できるところは和歌山県で対応したらいいと思うんです。だから、最初からほかのところに振るというんじゃないくて、だんだん、だんだん遠くになっていってしまうんで、それをどうにか近くで診れないかという話なので、だから、向こうも一番最初には県内でももちろんやってもらいたいと思うんで、それがまず消防の連携であったり、保健所の指示だったりするんで、そこを飛び越えていきなり相手のところに連れて行けという話ではないので、その辺も踏まえて、またお話ししていただけるというので、この話はもうこれで、いい話ができるように期待しております。

次、二点目よろしくお願いします。

○議長（中本正人君）次に、質問項目2、クラウドファンディングを活用したアニメ誘致に対する答弁を求めます。

経済推進部長。

〔経済推進部長（笠原英治君）登壇〕

○経済推進部長（笠原英治君）クラウドファンディングを活用したアニメ誘致についてお答えします。

まず一点目の、アニメのロケ地や登場するシーンのモデルをめぐる、いわゆる聖地巡礼の経済効果は、議員ご指摘のとおり目覚ましいものがあります。2007年のアニメ「らきすた」の舞台となった埼玉県の鷲宮神社では、アニメ放映前の3倍程度の参拝客が訪れ、県下第2位の初詣地となっています。また、関連グッズ販売で年間7,000万円以上を売り上げており、その他経済効果は、放映直後3年間で約10億円との報道がなされています。

また、茨城県の大洗町では、アニメ効果により、平成27年の観光客数は県下市町村で1位となる440万人にのぼっています。この影響

を受けて、ふるさと納税でも7,266件、2億円以上の寄附を記録しています。

これら全国の事例から、アニメの聖地となれば、極めて大きな経済効果、ブランドイメージの向上が得られる可能性があると考えられます。

次に、二点目の、アニメの誘致は特段の観光名所や人力的サポートを必要とせず、小中規模の自治体でも可能ではないかのご質問にお答えします。

人力的サポートについては、モデルとなる場所・建物の発掘という行動には、住民や専門家の協力が必要であると考えます。先行事例では、地元住民や事業者が率先して企画を打ち出し、誘致に向けて盛り上げてきたということです。

フィルムコミッション誘致と同様、積極的に取り組む住民とそれを支援する行政という構図により、アニメーション誘致の成功につながるものと期待しています。

最後に、三点目の、ジャパニメーションというカテゴリーを背景に、アニメーション誘致をクラウドファンディングで取り組むべきのご質問にお答えします。

日本アニメの人気は、東アジア圏を中心に国際的にも高く評価されており、経済産業省において、アニメ・漫画のコンテンツ産業振興施策を打ち出しているところです。

また、一方で、高度なアニメ制作に係る資金調達が困難になってきているという現実があります。このことから、従前のスポンサーによる資金調達ではない、多数の賛同者によるクラウドファンディングが先進的であり、今後拡大していくものと思われま

す。本市としては、アニメ・漫画のコンテンツをガバメントクラウドファンディングとして取り組むことを検討していきたいと考えていますが、あくまでも住民主導型による提案を

期待します。舞台となり得る地域資源の掘り起こしを、本市に縁のあるアニメ監督・クリエイターへの人脈拡大、アニメ産業の動向研究など、住民主導で提案していただき、行政として何を支援できるか検討してまいりたいと考えます。

○議長（中本正人君）14番 岡君、再質問ありますか。

14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ありがとうございました。

どれほどマニアックにいかうか考えておったんですけど、あまりマニアックにいくと皆さんわからなくなるんでね。

以前に話させてもらったときに、ちょうどこれ、答弁書にも書いてくれてあるんですけど、大洗町。これも前に一般質問させてもらった、そのとき、なんじゃそりゃという感じやったんですけど、実際、経済効果見てもうたら、僕当時言うておった経済効果、当時これほんまにはしりやったんですよ。大洗町でやったアニメ、放送されたばかりやったんですけど、かなり話題になっていて、それが今では440万人にのぼっている。

当時、質問さしてもうたときに、岡君はアニメ好きで終わらんと一生懸命やってくれておったら、もしかしたら橋本市にも440万人の人が来ておったかもしれんですけど、それはもう絵に描いた餅なんでいいですけども、クラウドファンディングを使ったアニメで、今話題になっているのが、ちょっと紹介させてもらったんですけども「この世界の片隅に」。ご存じの方、いらっしゃいますか。知らんかな。知りませんか。知ってますね。はい。一人いらっしゃいましたね。これ、かなり賞もとってます。あまちゃんに出ておった、今改名した、のんやったかな、が声優さんとして出てはって賞もとってましたね。この間、テ

レビでやってましたけども。

これ、もともとすごく制作費がなくて、クラウドファンディングによってお金を集めて、そして異例として成功している映画の一つです。その監督が片渕須直監督なんですけど、その監督がコメントの中で、一部の有名ブランドのものを除けば、そのいずれもが質の高さと不釣り合いな興業的苦戦を繰り返していますと。つまり、アニメ業界というのは、一部の監督、才能があり、そしてもちろん運もあり、実力もあって、そして下積み時代からいろんな方から引っ張り上げてもらったのもあるし、その中で今の地位を築いてはる監督がいるんですけど、ほとんどの監督というのは、日本のクリエイターというのは才能のある方が非常に多いんですよ。ただ、チャンスに恵まれない。そのチャンスを自分たちでつくっていかうということで、クラウドファンディングを活用して今資金集めをしているというのが、これからのやりになると思うんです。

その中で、橋本市、以前アニメ誘致の話さしてもらったんですけど、答弁読ましてもうたら、ちょっと僕と考えが違うというか、以前のアニメ誘致というのは、今ではもう無理ですね、正直な話。もう遅い。何をするかって、これからのアニメ誘致というのは、はっきり言って先行投資。宝くじ買うの、事例がありましたけど、本当に宝くじ買うのと同じです。先行投資です。つまり、才能のあるクリエイターの方の映画を、本当にそれがはやるかどうかを吟味して、クラウドファンディングするときに条件は何か。条件を考えたときに、それは、例えば橋本市のとある場所をシーンに使ってもらうのが条件であったり、例えば市長を登場させてもらったりとか、もいいんですかね。クラウドファンディングするときにいろんな条件を、もちろんアメリカ

とかヨーロッパでは結構お金を、投資になるんで、お金がもうかったらその分何パーセント返してもらおうとかいうのがあるんですけど、行政がやるアニメの誘致でいうたら、一番は、やはりその条件は観光地をつくってほしいと。その観光地をつくってほしいのに先行投資するという形を、やっぱりこれからとっていかんと、アニメ誘致するから、するから言うても、その場所が、アニメっていうのは場所を選ばないんです。

さっきも書かしてもらいましたが、自分ばかりしゃべって申しわけないですが、前も言いましたが、ちょっと今回皆さんにコピーしてこなかったんですけど「君の名は。」、皆さん知ってはりますよね。「君の名は。」って、実はすごい聖地めぐり盛んなの知ってますか。皆さん、今ネットあるんやったら見てもうたらしいんですけど、また資料配ろうかと思ったんですけど、「君の名は。」で出てくる、これ、ちょっと見えないんですけど、ポスト。ポストですよ。普通にあるポスト。ここ、何十人も写真撮りますよ。ポストをですよ。これ、いま日本で一番有名なポストですよ。ほんまの話、これ、ただのポスト。

主人公が女の子と出会う階段あるんですけど、ここ、同じようなポーズで撮る人たくさん。「君の名は。」というだけで聖地めぐり。この聖地めぐりで何が大事って、何も行政が提供しているわけじゃないんですよ。そこが使われてたら、こうやって皆探すんです。探して自分で行ってくれるんです。しかも、何も人を人間的にサポートする必要もなければ、しかも、100%そのロケーション使わないんです。結局90%想像の世界で、10%現実社会があればいいんです。だから、皆聖地めぐりするんです。100%同じ描写のところでアニメがあったら、誰も聖地めぐりしないですよ。90%空想やから。その10%、1割が現実にあるか

ら皆聖地をめぐるんですね。それを、やっぱりもっと真剣に考えていかなあかんと思うんです。特に橋本市とかが、橋本市にこのポストあったら、すごい人来ますよ。別にそんな有名どころ、要らないんですよ。

そういうのを考えていけば、観光資源に乏しいところにとっては非常にいい。しかも、ロケーションが少なくても、9割は空想でやってくれるんで、あと1割さえはめ込んでもうたら。お金もかからない。ただ、今のアニメ誘致というのは、クラウドファンディングで先行投資をしないと、なかなか成功しなかなと思うんですけども、何か答弁書読んだら、地域で盛り上がってという話になってるんですけど、僕が言ってるのは、クラウドファンディングでまず先行投資をして、その中から費用対効果を考えるべきやと思うんですけどもという質問なんで、その辺についてはいかがでしょうか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）議員、非常にお詳しいので、なかなか私としてはお答えづらいんですが、私なりに、ご質問いただいてから、アニメファンの特徴というか、決して議員さんがそうというわけではないんですが、いろいろ私とこの職員にも結構マニアックな職員がいてまして、いろいろ話したんです。

その中で、巡礼客となって誘客を図っていくにあたって、アニメファンというのは、地域から誘客して、いろいろこういうところがありますよというふうに、巡礼地とわざわざしていくことのわざとらしさというのを非常に嫌がるようです。彼らにとっては、自分たちの間でいろいろネットをつながっていったって、こういうことがあるよ、ああいうことがあるよということで、実際行ってみたら非常に地域の盛り上がりもあって、おもてなし感がある。そこへ来て、結構おいしいものがあった、

アニメの主人公もひょっとしたらこういうものを食べておったん違うかと、そこにおける市民でさえ、そのアニメのキャラクターとして、そういうふうに考えてしまうと、そういうふうな話をしてました。

そういう中で、壇上でもお答えさせていただいたんですけど、行政のほうから一方的に、あまり、私とこアニメの巡礼地ということで提案していくのではなくして、あくまでも住民主導の機運がある程度、提案していただいたら、それが形成された時期にクラウドファンディングなんかもガバメントでやっていくのもええんではないかというふうに思っております。あまり行政主導で正直進んでいくのはいかがなものかと考えております。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）どない言うたらいいでしょうね。きっとアニメやからでしょうね。観光というものに関して、今の、何をやるにしても行政はお金がかかるので、もう今の話はしませんけど、どない言うたらいいでしょうね。

世界的にアニメというものに対して、僕はあまりこう言うと、だんだん自分がアニメオタクになってくるなと思うけど、そういうわけではないですけど、世界的に見て日本のアニメの評価というのは、日本よりかなり評価が高いんです。日本の中で日本のアニメの評価、低いんですよ。正直な話。何でかという、年代別で見ても、僕たちよりも上の人からしたら、アニメは漫画ってなっちゃうんですよ。漫画やろって言われるんです。実際、有名な監督が世界ですごく活躍してても、結構知らない年代の方が多いというんかな。

例えば、この間も話になってましたけど「シン・ゴジラ」、皆さん、議会でも同僚議員が言っていましたけども、「シン・ゴジラ」の監督って知ってますか。庵野さんって知ってますか

ね。これ、庵野さんっていうんですけどね。もともと何の監督か知ってますか。この辺、若い世代は知ってますね。エヴァンゲリオンですよ。エヴァンゲリオンの制作者、監督。庵野さんもずっと下積み時代もあって、もともとエヴァンゲリオンというのは「風の谷のナウシカ」という映画、知ってますか。スタジオジブリ。皆さん知ってますよね。巨神兵が出てくるシーンを担当した人なんです。当時の巨神兵の映像とエヴァンゲリオン見たらそっくりなんですけどもね。結構それは有名な話なんですけども、結局、下積み時代があって、チャンスをつかんだ人は大きな会社を持てるし、でも同じように下積みしてる人たちは、監督になるチャンスがなくて、どうしても下積みばかりが長くなってるときに、やっぱりクラウドファンディングというのを今活用し出してるんです。

これも、監督が今ちょうど皆さん、映画というと、アニメの映画って考えると宮崎駿ってすぐ出ませんか。こう、イメージ、宮崎駿監督。宮崎駿監督も、もともとはルパン三世やったり、未来少年コナンというアニメやったりね。本当に当時から有名な監督やったんですけども、やっぱり下積み時代に、チャンスを与える意味でもクラウドファンディングで先行投資していく。ヨーロッパでは画家とか才能のある音楽家にもどんどんどんどん先行投資します。それは見きわめは難しいですけど、やっぱりそれは先行投資しないと見返りがいいからですよ。

そしたら、待っていてもアニメ誘致はできないというのは、もう既にそういうのはひと段落してしまってます。僕、前に一般質問してもうてから5年ぐらいたつんやけど、いろんなところが同じようなことしてますわ。だから、今から追いかけても無理なんで、これからはクラウドファンディングで先行投資

という形が、僕は一番ええとは思うんですけども、結局、何が言いたいかというと、アニメを漫画というカテゴリーでとらえてしまうと、どうしてもちょっと違うん違うかというふうに見られてしまう。行政がするもんじゃないと、前副市長にも言われました。行政でアニメするのはおかしいん違うんかと。

だから、アニメと何かと比べたときに、アニメを下に見るとというのはどうなんかなというのには僕はあるんですけども、で、さっき言うた興行成績、「君の名は。」、昨年度1位なのは、皆さん、もちろん知ってはりますよね。興行成績1位なのは知ってはりますよね。2位はスターウォーズなんですよ。昨年度。さっき言うてた「シン・ゴジラ」は3位なんです。2位の「スターウォーズ」がだいたい116億円。「君の名は。」、いくらか知ってますか。235億円。これ、去年の時点です。まだやっておるんですよ。まだやっておるんですね。ということは、もう確固たる地位はアニメの中にあるんです。

つまり、若い子とか一部の人間が見て、この数字は行かないんですよ。わかりますか。日本人の1割近くの間人が見ておるんです。テレビでやったん違いますよ。わざわざ映画館に足運んで、1割の間人が見に行ってるんですよ。ということは、もう既にすごい、カテゴリーとして日本のアニメーションというのは、かなり存在感のあるものに日本でもなってきたんです。漫画やからという感覚を捨てて、やはり一つの観光の目玉になっているんやから、それは事実です。5年前も同じことを言いました。今やっておかんと、もう遅いでと言いました。で、5年たって、やってないんですよ。で、結果見たら、大洗町の話がちょうど載ってあったんで、これ、僕当時言うたときに、ほんまにそれ何みたいな話やったんですけど、これでこのまち、すご

い潤ってます。

だから、さっきも言いましたけど、今のアニメ誘致では、もうとてもじゃないですけど追いつかないんでね。できたら、こういった形の先行投資をして、そして、観光を誘致していく方法を、僕は行政主導でやっていくべきやと思うんですけどね。別に民間が、民間でできる、民間は皆個人でやってるじゃないですか。クラウドファンディング。「この世界の片隅に」も個人で皆さん出してはるんですよ。もちろん企業も出してはるけど。だから、個人は個人で出してはるんですよ。そうじゃなくて、行政としてできること。行政としてアニメにかかわって、経済的波及効果がどれだけあるかというのを考えたときに、やるべきかやらないべきかというのは、僕はこれからの課題やとは思いますが、つついアニメという、何かこう、マニアックな部分で、一部の人たちが見るものやというふうに感じてはるのであれば、「君の名は。」の観客動員数と興行成績を見れば、どれだけの人が見て、一部の人間のものじゃないかというのはわかるので、ぜひともそういうところも考えてもらいたんですけども、いかがでしょうか。

○議長（中本正人君）経済推進部長。

○経済推進部長（笠原英治君）アニメ制作会社にとっては、今までずっと背景から全てアシスタントと協力しながら映画やっておったものが、最近なかなか資金的に厳しいので、ローカルな写真を撮ってきて、それを背景に生かしていくという、そういう手法を、できるだけお金要らんようにしておるようです。

そういうことから、できるだけ私とこととしては、そういう素材になり得るものをどぶ板的に探していく必要があるかと思えます。そういうところから、アニメ巡礼者と呼ばれる方が来ていただくためには、やっぱり住民

が、市民が受け入れるおもてなし感を十分持って行ってこそ、それが可能だと思いますので、やっぱり行政が一方的にというのは、どうも私は、アニメを否定するわけでもないし、私も昔からアニメーションよく見てますけど、そういう部分で、やっぱり住民と一緒に取り組んでいく必要があるかと思えます。行政主体ではないと思っております。

○議長（中本正人君）14番 岡君。

○14番（岡 弘悟君）ちょっと答弁あれなんですけど、それは聖地化してからの話であって、まだ何も進んでないと思うんですけど、あと、ロケーションを探さなあかんって、僕、さっきから言うてますけど、ロケーションは要らないんですよ。ポストが聖地になるんです。交差点が聖地になるんです。探さんでいいから、そういうのが乏しい市町村にとっては大切な事業じゃないですかという話をしておるんです。本末転倒なんですよ。そんなロケーションなんか選ばんでいいんです。さっきから言うてますよ。ネットで見てください。ただの交差点です。ただの信号。その辺にある坂。それが一気に有名になる。だから、僕はこういうところを取り組めばいいと言うてるだけの話であって、何も有名どころが必要じゃないです。スポットも要りません。この議場がテレビでアニメ化になったら、いろんな方が傍聴に来てくれると思えますよ。そういう話です。以後、今後研究してください。

以上です。

○議長（中本正人君）14番 岡君の一般質問は終わりました。

○議長（中本正人君）お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ延会し、明日3月7日午前9時30分から会議を開くことにしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長(中本正人君)ご異議なしと認めます。
よって、そのように決しました。

本日は、これにて延会いたします。
ご苦労さまでした。

(午後4時31分 延会)